

授業科目名： 教育心理学（初等）	教員の免許状取得のため の 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：平田乃美 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
「学位授与の方針」との関係			
星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。			
A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。			
B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。			
C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。			
D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。			
E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。			
F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標およびテーマ			
(1) 教育心理学とは何か、教育心理学で扱われる問題を知り、研究方法を学習することで教育心理学の知識がどのような根拠に基づいて得られたのか理解できるようになる。			
(2) 発達とは何か：発達という概念、発達の理論、発達のプロセス、発達を規定する要因など乳幼児期からの生涯にわたる発達の問題について教育と関係づけながら理解する。			
(3) 学習の種類とメカニズムの基礎を理解する。			
(4) 学習への動機づけとそれに影響を与える要因について、教育と発達という視点から理解する。			
(5) さまざまな学習指導の理論と方法、授業での学習形態と効果について理解する。			
(6) 知的能力・学力・パーソナリティ・社会性について基本的知識を獲得し、発達過程にある幼児、児童・生徒の能力・特性などの多様性の源泉について理解する。			
(7) 学級集団の心理、教師-子ども関係、子どもの仲間関係が教育にどう影響するかを理解し、対応を考えられるようになる。			
(8) 子どもの不適応、病理的傾向、不登校といじめの諸相と要因、子どもへの心理臨床的援助技法について理解し、根拠に基づいた対応ができるようになる。			

(9) 障害児の心理と特別支援教育について理解し、適切な対応ができるようになる。

授業の概要

まず、上記の到達目標とテーマにそって、教科書による学修をする。次に、指定されている課題をレポートにまとめ、レポートに対して教員からフィードバックを受けることによって、さらに深く内容を理解する。レポートでは、たんに教科書に書かれている事実をまとめるだけでなく、自ら検索した実証的な資料について考察することも求められる。とくに科目修得試験は、「幼児・児童期の発達と学習」の理解に焦点をあてた問題を含む。

最終的に、この授業では、教育心理学が「根拠に基づいて」子どもの発達を理解した上で教育を行うことを目指し、また教育の場でのさまざまな問題を解決するための知識・技能・態度を修得することを目指していることを学ぶ。

授業計画

第1回：教育心理学とはどのような目的をもった学問か、教育心理学の内容

第2回：教育心理学の研究法とそれぞれの特徴：教育の場での実験法・調査法・事例研究法・観察法

第3回：発達とは何か：発達概念の理解、発達の一般的な特徴、発達を規定する要因

第4回：「発達段階」と「発達課題」という考え方、発達と教育の関係

第5回：学習への動機づけ（学習意欲）(1)：動機づけのプロセス、欲求・動機

第6回：学習への動機づけ（学習意欲）(2)：外発的動機づけと内発的動機づけ、コンピテン
ス動機、有能感・自己効力感

第7回：学習への動機づけ（学習意欲）(3)：原因帰属、無気力

第8回：学習のメカニズム（学習の起こり方としくみ）、問題解決としての学習、記憶のモデル・方略・記憶の内容

第9回：授業と学習指導の心理学：協同学習と学習の個性化、受容的学習から主体的学習に至る多様な学習指導の理論

第10回：学級集団の心理、教師-子ども関係

第11回：教育評価、知的能力の発達と測定、学力と学業不振などの学習評価

第12回：パーソナリティ、社会性、親子関係、仲間関係

第13回：子どもの不適応、生徒指導の重要な課題（不登校・いじめ・非行）

第14回：心理臨床的援助技法（カウンセリングと心理療法）

第15回：子どものさまざまな障害と障害に応じた対応、特別支援教育としての学校システム
定期試験

教科書

桜井 茂男（編著）『改訂版たのしく学べる最新教育心理学 教職に関わるすべての人に』
図書文化社 2017 年

参考文献

(1) 鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学（第4版）』有斐閣 2015

(2) 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司著『教育心理学(第3版)』有斐閣 2015

学生に対する評価

レポート評価（50％）、科目修得試験（50％）の割合で総合して評価する。